

年 組 名前：



死者の副葬品として埋葬されていたとみられる「トゥンバガ黄金仮面」
＝山梨市歌田

山梨市のギャラリー インカ帝国で使用

開館日は原則土、日曜（9日は開館）。ホームページから来場予約ができる。料金は大人千円、70歳以上と大学生500円、中高生300円、小学生200円。
〈山本就己〉

大嶋さんは、国際連合工業開発機関（UNIDO）に勤務時、滞在したアフリカで仮面に興味を持ち収集を始めた。2022年にギャラリーをオープンし、約500点の仮面を中心に展示している。

大嶋さんは「国や地域は違っても死者を弔い、子孫繁栄を願う気持ちは変わらない。さまざまな種類の仮面を楽しんでほしい」と話している。

副葬品の「黄金仮面」紹介

世界各地の民族の仮面を展示する世界民族仮面「チギヤラリ」（山梨市歌田）は、新たにインカ帝国で死者の副葬品として使われたとみられる合金の仮面や、子孫繁栄や安産を祈願する仮面の展示を始めた。
副葬品とみられる合金の仮面は「トゥンバガ黄金仮面」。長く地中に埋められていたとみられ、両側に動物の顔を模した突起がある。館長の大嶋清治さん（76）＝川崎市＝は「神聖な動物とされたピチュマを表現しているのではない」と分析する。
16世紀ごろまでコロンビア北部で栄えた「タイロナ文明」の子孫が手がけたとされる、ミニサイズの金色の仮面も展示。両手で大きなおなかを大事そうに抱える妊婦や胎児を表現した仮面も並んでいる。

（2025 年 5 月 9 日付 山梨日日新聞 19 面）

問1

山梨市のギャラリーで、展示されている副葬品とみられる合金の仮面の名称を教えてください。

問2

大嶋さんが、収集を始めたきっかけを教えてください。

問3

あなたが、博物館や美術館で観て「凄い」と感動したものを書いてください。